

知的障害者の個別生活移行支援プログラム提供システム 開発に向けた基礎的研究

- 居住環境が異なる知的障害者の生活技能の特徴 -

矢口 達也 (社会福祉法人 試行会)
伊藤 浩 (社会福祉法人 試行会)
中西 晴之 (社会福祉法人 試行会)
橋本 創一 (東京学芸大学・特殊教育研究施設)
菅野 敦 (東京学芸大学・特殊教育研究施設)

要 旨: 成人期知的障害者が地域生活へ移行することを目標とした支援プログラムを、個々に応じて提供する『生活移行支援プログラム提供システム』開発に向けた基礎資料を得るため、様々な居住環境で生活している知的障害者の実態を、適応スキルの側面から調査した。調査項目は、AAMRの10の適応スキル領域、ICFにおける活動と参加の9領域、国内外で使用されている評価バッテリーを参考に、独自に作成した。その結果、成人期知的障害者における適応状況はMAによる影響を強く受けるものの、居住環境群により支援ニーズが異なることが明らかとなった。具体的には、施設生活者はグループホーム生活者と比べ、ADL、IADL領域に関連した適応スキルにより支援ニーズが高かった。このことから、施設からグループホームなどの地域生活への移行を目標とした支援プログラムには、ADL、IADLに関連した適応スキルを優先して支援していく必要があることが示唆された。

Key Words: 知的障害者, 移行支援, 適応スキル, 居住環境

はじめに

平成11年1月、中央児童福祉審議会は「今後の知的障害者・障害児施策のあり方について」の中で、更生施設の機能の見直しとして「地域生活を支援するためのサービスの充実化」と「地域移行を促進するための個別プログラムによる訓練機能の強化」の必要性を指摘している。しかし、移行を促進するための指導方針は確立されておらず、入所更生施設からグループホームや生活寮、アパートなどの地域生活への移行率は、約0.7%に過ぎない。ノーマライゼーションの理念のもと、在宅支援サービスの充実が図られ、地域の中でいきいきと生活する知的障害者の姿が各地で報告されている。地域生活への移行を促進するために、支援内容の具体化と、個々の機能・能力に応じた支援目標を導くアセスメントツールの開発が知的障害者援護施設には求められている。

知的障害者における地域生活の場として、グ

ループホームがあげられる。グループホームは、日常生活援助を受けながら地域生活を送る、地域生活援助方法のひとつとして1989(平成元)年に制度化された。地方自治体の補助要綱のもとに運営されている同様の生活援助機能は、生活寮、生活ホーム、グループホーム等の名称で呼ばれている。国の制度であるグループホームは、制定当時、就労していることが入居要件であったが、この要件も2000(平成12)年に撤廃された。今後、重度知的障害者も十分に移行対象となることが予想され、入所更生施設からの具体的な移行先として捉えることができる。

国の制度としてのグループホームと地方自治体の制度としての生活寮、生活ホーム等は、地域社会の中にある住宅で、数人の知的障害者が、一定の経済的負担を負って生活する、という点で共通している。地域での生活をより意義のあるものにするには、この、に関連するスキルの向上を目指した支援が必要であ

るといえる。数人の仲間と地域社会の中で生活を営む上で重要なスキルとして、コミュニケーションやコミュニティ資源の利用、家事、余暇などが考えられる。居住型施設生活者とグループホーム生活者の間に、これらの領域に関連するスキルに質的な差異があるのであれば、移行支援プログラムの重点的な支援領域として考えられる。

グループホームにおけるこれまでの研究は、主に運営面(渡辺 他, 1998, 1998, 2000; 全日本手をつなぐ育成会, 2000)や生活実態(関戸 他, 1998; 神奈川県知的障害施設団体連合会, 1999; 島田 他, 2002)に関するものが中心に行われてきた。グループホームに入居する知的障害者の適応スキルや ADL スキルに関する研究では、島田ら(2002)や有岡(1999)などがあるが、前者は高齢者を対象とした実態調査であり、後者はグループホーム適応の判別方法に関するもので、移行支援システムの構築という視点では、これまで、ほとんど研究がなされていない。移行支援プログラムにおける支援内容を具体化するためには、まず、居住環境が異なる知的障害者の適応スキルの質的差異を明らかにする必要がある。

そこで、本研究では、地域生活への移行を目標としたプログラムを個々に提供する『個別生活移行支援プログラム提供システム』の開発に向けた基礎資料を得るため、グループホーム、在宅、施設に居住する成人期知的障害者の生活実態に関する基礎調査を適応スキルの側面から行い、居住環境が異なる知的障害者における支援ニーズを明らかにすることを目的とする。

・ 方法

1. 対象者

神奈川県 Y 市にある知的障害者援護施設(知的障害者入所更生施設 2 ヶ所, 知的障害者通所授産施設 1 ヶ所)の利用者 276 名, グループホームに入居している知的障害者 44 名, 計 320 名である。分析対象者の CA, MA の分布を Fig.1 に示す。生活年齢の平均は 30.1 歳(SD=9.72, 範囲 18~69), 精神年齢(MA)の平均は 4 歳 6 ヶ月(SD=2.47, 範囲 1.0~11.2)であった。また, 障害種別の内訳は, ダウン症者が 54 名, 自閉症者が 61 名, その他の精神遅滞(以下, 精神遅滞)が 205 名であった。居住環境別のプロフィールに関しては, 入所施設生活者が 122 名(CA 平均 32.6 歳, SD=11.36

MA 平均 3.1 歳, SD=2.14), グループホーム生活者が 44 名(CA 平均 35.1 歳, SD=8.17 MA 平均 6.5 歳, SD=1.72), 在宅し通所施設を利用している知的障害者が 154 名(CA 平均 26.6 歳, SD=7.18 MA 平均 5.1 歳, SD=2.26)であった。

尚, 調査用紙項目への記入率が 90%に満たなかった 26 名は, あらかじめ分析対象から除外している。

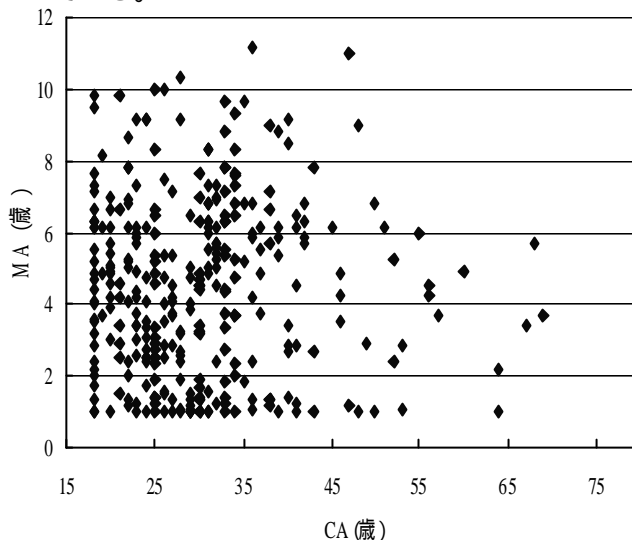


Fig.1 分析対象者の CA-MA 分布

2. 調査内容

現在, 知的障害者の適応スキルを評価する尺度として, 『新版 S-M 社会生活能力検査(三木, 1980)』, 『適応行動尺度(富安 他, 1973)』などが使用される場合があるが, 適用年齢の低さや, 開発以降 20 年以上が経過している事など, 必ずしも, 地域生活への移行を念頭に置いた評価尺度としては十分ではない。そこで, AAMR(1992)の 10 の適応スキル領域, ICF(2001)における活動と参加の 9 領域, 国内外で使用されている種々の評価バッテリー(適応行動尺度, 新版 S-M 社会生活能力検査, 乳幼児精神発達質問紙, 乳幼児発達スケール, 適応度調査表, 生活適応支援チェックリスト)を参考にし, 13 領域 145 項目からなる調査用紙を独自に作成した。各項目の評価は 5 段階に設定した介助レベル(1: 全介助~5: 自立)で行った。また, プロフィールとして, 生活年齢, 精神年齢, 診断名に関する情報を得た。

3. 調査方法

対象者を直接担当する施設職員(在宅の者は通所施設職員)に調査項目への記入を依頼し, 回収した。調査期間は 2002 年 10 月から 11 月である。

4. 分析方法

調査項目の評価基準に従い、1点(全介助)から5点(自立)の得点化を行った。すなわち、得点が高いほど各スキル項目の達成度が高いことを示している。評価結果は、以下にしたがって分析を行った。

1) 適応スキルに関する実態

調査項目による評価：各調査項目の平均値および領域別の平均値を求める。また、MA, CA, IQ と各領域の平均値間の相関係数を求める。

調査項目の「達成 MA」の算出：分析対象者を、MA にもとづき再群化し、調査項目ごとに、各 MA 水準における「ほぼ自立(評価値 4)以上と評価された対象者の割合」を集計する。そして、70%以上の達成の見られた MA 群の中で、最も低い MA を達成 MA とした。

各対象者を平均得点により介助レベル別に目立レベル(4点以上)、間接介助レベル(3~4点)、直接介助レベル(5点未満)に再群化し、居住環境別(GH, 居住型施設, 在宅)に利用者数を集計する。

2) 居住環境による適応スキルの質的差異

『居住環境別獲得困難項目』の抽出：調査項目の「達成 MA」を基準に、個々の対象者の「獲得困難項目」を求め(例：達成 MA が 4 歳の項目を、MA5 歳の対象者が未達成の場合、獲得困難項目とする) 居住環境群ごとに抽出し、比較分析する。

Table.1 各領域、総合得点の平均値および SD

	M	SD
食事	4.3	(0.88)
着脱	4.0	(1.10)
排泄	4.3	(0.99)
移動	3.8	(1.20)
身だしなみ	3.8	(1.28)
外出	3.4	(1.32)
金銭管理	2.5	(1.29)
起床 就寝	4.1	(1.18)
家事	3.3	(1.33)
余暇	3.6	(1.26)
健康管理	3.2	(1.45)
作業技術	3.3	(1.30)
作業態度	3.7	(1.18)
総合得点	3.6	(1.13)

. 結果

1. 適応スキルに関する実態

1) 調査項目による評価結果

領域別の平均値を Table.1 に、調査項目平均値の上位 10 項目と下位 10 項目を Table.2 に表した。全調査項目の分析対象者全体の平均は 3.62 (SD=1.13) であった。また、評価項目の平均値で得点の高かった上位 10 項目は、「食事」、「着脱」、「排泄」領域の項目であり、いずれの項目も平均値

が 4.5 点以上であった。同様に得点下位 10 項目は、「作業技術」、「外出」、「金銭管理」領域の項目であった。これらの項目は、今回調査対象とした成人期知的障害者の多くの対象者にとって、適応スキルに制約があることが明らかとなった。

CA, MA, IQ と各領域得点との相関係数を求め、Table.3 に表した。CA と各領域の平均得点

Table.2 評価得点上位 5 項目と下位 5 項目

	項目	得点
上位5項目	4 コップの使用	4.77
	2 スプーンの使用	4.74
	24 排泄時の着脱	4.67
	3 フォークの使用	4.66
	29 階段の昇り降り	4.65
下位5項目	66 計画的に貯金する	2.02
	67 1週間の支出を調整する	2.03
	65 小遣い帳をつける	2.16
	80 手順のある調理	2.41
	110 組立作業	2.47

Table.3 CA, MA, IQ と各領域得点間の相関係数

	MA	IQ	CA
MA	--	--	--
IQ	.999 **	--	--
CA	-.015	-.029	--
食事	.599	.598	.005
着脱	.693	.692	-.039
排泄	.615	.615	-.045
移動	.774 *	.773 *	.021
身だしなみ	.728 *	.726 *	.035
外出	.825 **	.823 **	.066
金銭管理	.808 **	.808 **	.080
起床・就寝	.661	.660	-.004
家事	.784 *	.780 *	.071
余暇	.757 *	.754 *	.052
健康管理	.789 *	.786 *	.121
作業技術	.788 *	.785 *	-.007
作業態度	.742 *	.739 *	.046

** $r > .8$ * $r > .7$

間では、相関がみられなかったが、MA, IQ, 各領域の平均得点の間には、高い相関が認められた。MA と領域平均値間で、0.7 以上の著しく高い相関がみられた領域は、「移動」、「身だしなみ」、「外出」、「金銭管理」、「家事」、「余暇」、「健康管理」、「作業技術」、「作業態度」の 9 領域であった。

2) 調査項目の「達成 MA」の算出

各領域の平均値と MA, IQ との間には、いずれの領域も高い相関が認められた。そこで、知的水準による各項目の得点傾向をみることにした。今回の調査項目が、どの程度の知的水準で達成しているのかを明らかにするためである。

MA 段階ごとに、各調査項目において「ほぼ自立(評価値 4)」以上と評価された割合(以下、「達成率」と表す)を集計した結果、全ての項目で、MA 水準の昇に伴い達成率が概ね上昇した。そこで、「項目別達成 MA」を、「達成率が 70%以上であった最も低い MA 段階」と操作的に定義し求めた(Table.4)。各 MA 水準における達成項目は、MA1 歳代で 3 項目、MA2 歳代で 23 項目、MA3 歳代で 17 項目、MA4 歳代で 29 項目、MA5 歳代で 35 項目、MA6 歳代で 28 項目、MA7 歳代以上で計 9 項目であり、今回行った調査項目は 90%以上が 6 歳代で達成していた。

項目別にみると、生活面では「食事用具の使用」や「服を着ること」、「排泄」、「階段の昇り降り」、「入浴」など身辺処理に関する項目は達成 MA が MA3 歳以下であった。一方、「食事のマナー」、「身だしなみ」、「仲間とはぐれずに移動する」などの社会性に関連する項目や、「食器を並べる」、「おかずを盛り付ける」、「洗濯機の使用」、「自室の装飾」など家事に関連する項目、外出などの余暇に関連する項目は達成 MA が MA4 歳以上であった。また、作業面では、「作業開始の指示を待つ」、「作業準備」、「片付け」など、活動の流れの中で繰り返し行われる項目は達成 MA が MA3 歳以下であり、「始業に遅れない」などの意欲、「不調の訴え」、「周囲との交流」などの社会性に関連する項目は達成 MA が MA4 歳以上であった。作業技術に関連する項目は、「荷物を持つ」の粗大作業に関連する項目は達成 MA が MA3 歳以下であったが、「大きさ別に分類する」や「色別に分類する」、「組立作業」、「ハサミやカッターの使用」など、ほとんどの項目で項目別達成 MA が MA4 歳以上であった。

3) 各居住環境における介助レベル別の割合

分析対象者を全項目平均値により、自立レベル(4 点以上)、間接介助レベル(3 点以上 4 点未満)、直接介助レベル(3 点未満)の 3 群に操作的に再群化し、居住環境別に集計した。(Table.5)

自立レベルとして集計された人数は、GH 群が 41 名(93.2%)、居住型施設群が 42 名(34.4%)、在宅群が 101 名(65.5%)であった。間接介助レベルとして集計された人数は、GH 群が 3 名(6.8%)、居住型施設群が 37 名(30.3%)、在宅群が 43 名(27.9%)であった。直接介助レベルとして集計された人数は、居住型施設群が 43 名(35.2%)、在宅群が 10 名(6.5%)であった。GH 群では、直接介助レベルに該当する対象者はいなかった

2. 居住環境による適応スキルの質的差異

個々の分析対象者について「獲得困難項目」を求め、居住環境群別に項目数を集計した。「獲得困難項目」は、1-2)の「達成 MA」を基準に、対象者の「当該 MA 以下の項目で、評価値が 3(部分介助)以下であった項目」と操作的に定義した。「獲得困難項目」として抽出された項目数は、達成 MA が MA4 歳以下である 72 項目のうち、GH 群が 39 項目、在宅群が 71 項目、施設群が 51 項目であった。同様に MA5 歳以下は、107 項目のうち、GH 群が 28 項目、在宅群が 88 項目、施設群が 86 項目であった。MA6 歳以下は、135 項目のうち、GH 群が 67 項目、在宅群が 102 項目、施設群が 122 項目であった。いずれの MA 段階においても、多くの項目が「獲得困難項目」として抽出された。

そこで、居住環境別の傾向をみるために、居住環境別による各々の群の MA 段階ごとに、その群の 50%以上の対象者にみられた獲得困難項目を居住環境別獲得困難項目と操作的に定義し、抽出した。尚、GH 群は MA3 歳代の対象者が著しく少なく、また、施設群では MA7 歳代以上の対象者が少なかったため、MA4 歳代、MA5 歳代、MA6 歳代の対象者をこの分析の対象とした。

抽出された居住環境別獲得困難項目を Fig.2 に表す。GH 群では、MA4 歳代で「適度な速さで食事する」、「歯を磨く」の身辺処理に関連する 2 項目のみが抽出された。施設群では、MA4 歳代で「汚れに気付き自ら着替える」、「身だしなみ」、「信号機に従って、横断歩道をわたる」の身辺処理に関連する 3 項目、MA5 歳代で、

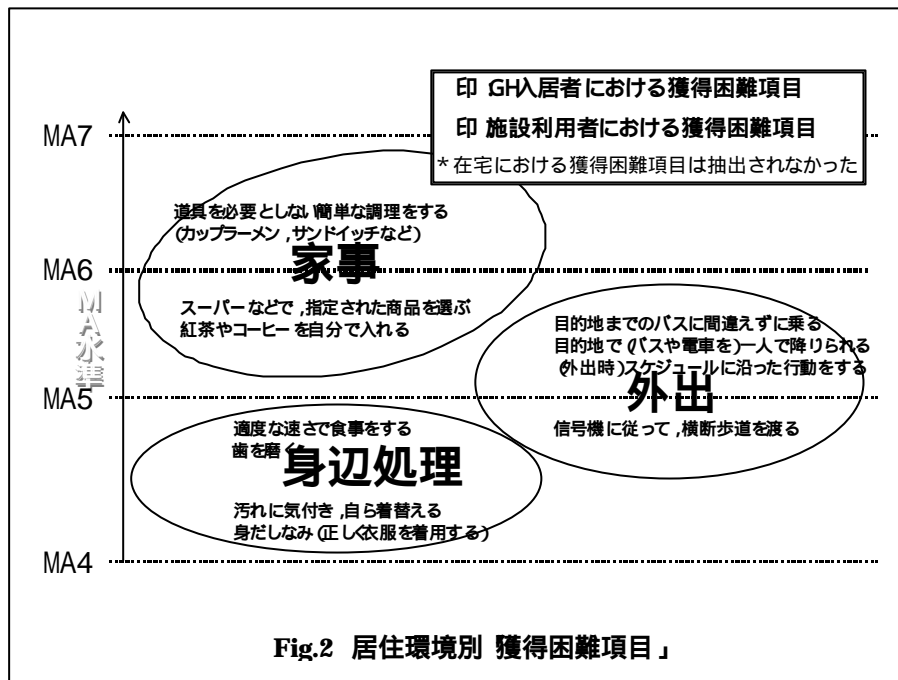
Table.4 調査項目の達成 MA

№	項目	MA1歳代	MA2歳代	MA3歳代	MA4歳代	MA5歳代	MA6歳代	MA7歳代	MA8歳代	MA9歳代	MA10歳<
		N=65 %	N=38 %	N=35 %	N=45 %	N=37 %	N=49 %	N=23 %	N=10 %	N=13 %	N=5 %
1	箸を使用し、食事を摂る	50.8	92.1	94.3	93.3	91.9	98.0	100.0	100.0	100.0	100
2	スプーンを使用し、食事を摂る	78.5	97.4	97.1	95.6	94.6	98.0	100.0	100.0	100.0	100
3	フォークを使用し、食事を摂る	70.3	92.1	94.3	95.6	94.6	98.0	100.0	100.0	100.0	100
4	コップの使用	78.5	94.7	100.0	95.6	97.3	98.0	100.0	100.0	100.0	100
5	缶ジュースなどのふたをあける	29.2	71.1	82.9	80.0	94.6	95.9	95.7	100.0	100.0	100
6	正しい姿勢で食事をとる	50.8	65.8	77.1	84.4	83.8	95.9	91.3	100.0	100.0	100
7	適度な速さで食事する	35.4	47.4	74.3	64.4	81.1	83.7	87.0	90.0	84.6	80
8	食事中、立ち歩かない	72.3	86.8	94.3	100.0	91.9	95.9	100.0	100.0	92.3	100
9	床にこぼした物を片付ける	16.9	52.6	60.0	82.2	91.9	89.8	100.0	100.0	100.0	100
10	食事の後、口元の汚れを直す	12.3	39.5	57.1	71.1	86.5	89.8	95.7	100.0	100.0	100
11	前後を間違えずに、服を着る	27.7	78.9	88.6	95.6	97.3	95.9	100.0	100.0	100.0	100
12	ボタンやファスナーの無い服を着る	53.8	94.7	97.1	95.6	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100
13	ボタンやファスナーの無い服を脱ぐ	56.9	94.7	97.1	95.6	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100
14	ファスナーのある服を着る(ファスナーをしめる)	27.7	71.1	82.9	95.6	97.3	98.0	95.7	90.0	100.0	100
15	ボタンのあるシャツを着る(ボタンをかける)	30.8	81.6	91.4	95.6	100.0	98.0	95.7	90.0	100.0	100
16	汚れに気づき自ら着替える	12.3	42.1	51.4	75.6	86.5	89.6	95.7	100.0	92.3	80
17	仕事着、普段着、外出着と目的に応じて着替える	7.7	31.6	57.1	68.9	81.1	85.7	100.0	90.0	92.3	60
18	天候に合わせて、衣類を調整する	6.2	21.1	45.7	55.6	67.6	77.6	87.0	80.0	92.3	60
19	身だしなみ	9.2	39.5	48.6	71.1	78.4	87.8	95.7	80.0	84.6	60
20	左右間違えずに靴を履く	36.9	89.5	85.7	91.1	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100
21	いくつもの靴の中から、自分の靴を間違えずに履く	50.8	92.1	97.1	93.3	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100
22	靴ひもを結ぶ	3.1	27.0	31.4	64.4	70.3	87.8	91.3	90.0	100.0	100
23	施設内(家庭内)でのトイレへの移動	66.2	94.7	97.1	93.3	94.6	98.0	100.0	100.0	100.0	100
24	排泄のための着脱を行う	64.6	92.1	97.1	95.6	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100
25	便器などを汚さずに使用する	38.5	78.9	80.0	88.9	94.6	91.8	100.0	100.0	100.0	80
26	排泄後、適切にペーパーを使用する	15.4	47.4	68.6	68.9	91.9	91.8	91.3	100.0	100.0	100
27	排泄後、水を流す	52.3	84.2	91.4	88.9	100.0	98.0	95.7	100.0	100.0	100
28	排泄後には必ず手を洗う	24.6	70.3	71.4	84.4	97.3	93.9	100.0	100.0	100.0	100
29	階段の昇り降り	63.1	97.4	94.3	95.6	100.0	95.9	91.3	90.0	100.0	100
30	通行人や車など、安全に配慮して歩行する	15.4	50.0	62.9	82.2	89.2	95.9	95.7	100.0	100.0	80
31	集団に遅れたり、列からはみ出すことなく移動する	24.6	47.4	65.7	80.0	78.4	91.8	78.3	80.0	92.3	80
32	毎日集合する場所まで単独で移動する	26.2	63.2	68.6	77.8	94.6	95.9	100.0	100.0	100.0	80
33	集合場所で、指示されるまで待機する	40.0	71.1	77.1	86.7	97.3	95.9	100.0	100.0	100.0	80
34	近所のよく利用する店まで、迷わずに行く	6.2	36.8	47.1	61.4	86.1	95.9	91.3	100.0	92.3	80
35	信号機に従って、横断歩道をわたる	6.2	52.6	57.1	75.6	97.3	98.0	95.7	100.0	100.0	100
36	順番に並びバス(電車)を待つ	10.8	57.9	60.0	77.8	86.5	93.9	95.7	100.0	100.0	100
37	目的地までのバスに間違えずに乗る	1.5	13.2	34.3	35.6	70.3	93.9	95.7	90.0	100.0	100
38	券売機で目的地までの切符を購入する	1.5	5.3	8.6	20.0	43.2	77.6	78.3	80.0	100.0	100
39	目的地で一人で降りられる	1.5	21.1	37.1	40.0	73.0	91.8	91.3	80.0	100.0	80
40	髪の毛を整える(化粧をする)	1.5	15.8	45.7	48.9	64.9	85.7	82.6	60.0	84.6	60
41	ハンカチなど、出勤時の持ち物を準備する	6.2	34.2	54.3	64.4	89.2	93.9	91.3	90.0	92.3	60
42	入浴の準備をする	15.4	47.4	62.9	80.0	86.5	98.0	91.3	90.0	100.0	100
43	脱いだ衣類を洗濯に出す	29.2	60.5	74.3	88.9	97.3	100.0	91.3	100.0	100.0	100
44	石鹸をつけて体を洗う	18.5	47.4	74.3	80.0	86.5	89.8	82.6	100.0	100.0	80
45	入浴後、体を拭く	15.4	52.6	65.7	80.0	86.5	91.8	95.7	100.0	100.0	100
46	歯を磨く	13.8	47.4	71.4	73.3	89.2	89.8	100.0	100.0	92.3	100
47	顔を洗う	13.8	44.7	74.3	82.2	83.8	89.8	100.0	100.0	92.3	100
48	石鹸などをつけて、手の汚れを落とす	15.4	52.6	71.4	82.2	89.2	91.8	100.0	100.0	92.3	100
49	店員に誘導され、席に座る	14.1	57.9	71.4	77.8	86.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100
50	自動販売機で欲しい物を選ぶ	26.6	65.8	91.4	80.0	94.6	98.0	95.7	100.0	100.0	100
51	写真つきメニューを見て、食事を選ぶ	15.6	60.5	82.9	77.8	91.9	98.0	95.7	100.0	100.0	100
52	食事の内容から店を選ぶ	3.1	13.2	43.8	45.5	56.8	85.7	82.6	90.0	100.0	100
53	トイレの場所を探す	3.1	36.8	45.7	57.8	81.1	91.7	95.7	90.0	100.0	80
54	決められた時間に、決められた場所へ集合する	1.5	18.4	25.7	33.3	62.2	91.7	100.0	100.0	92.3	100
55	目的に応じた荷物を準備する	0.0	10.5	34.3	37.8	59.5	85.7	87.0	90.0	92.3	80
56	スケジュールに沿った行動をする	1.5	18.4	28.6	53.3	73.0	89.8	100.0	100.0	100.0	80
57	仲間から、はぐれずに行動する	10.8	50.0	60.0	71.1	83.8	98.0	87.0	100.0	84.6	80
58	指定された時間に自宅(施設)に電話をかける	0.0	2.6	0.0	20.0	37.8	73.5	87.0	80.0	84.6	100
59	スーパーなどで、指定された商品を選ぶ	0.0	21.1	28.6	42.2	75.7	85.7	82.6	100.0	100.0	100
60	レジの場所を探す	7.7	26.3	45.7	57.8	83.8	93.9	82.6	100.0	100.0	100
61	おつりを受け取る	7.7	26.3	51.4	66.7	86.5	93.9	87.0	100.0	100.0	100
62	日常使用する物(歯磨き粉、歯ブラシ、シャンプー、石鹸など)の中で足りない物を購入する	0.0	7.9	14.3	28.9	54.1	75.5	69.6	80.0	92.3	80
63	居室(家庭内)で金銭をなくさないように保管する	0.0	13.2	22.9	48.9	64.9	85.7	87.0	90.0	84.6	100
64	財布を落とさないように持ち歩く	1.5	18.4	25.7	57.8	75.7	85.7	87.0	100.0	91.7	100
65	小遣い帳をつける	0.0	0.0	0.0	6.7	16.2	40.8	39.1	66.7	69.2	100
66	特定の目的のために、計画的に貯金する	0.0	2.6	2.9	6.7	8.1	38.8	43.5	60.0	69.2	40
67	指定された金額の範囲で、1週間の支出を調整する	0.0	0.0	0.0	4.4	5.4	36.7	47.8	60.0	69.2	60
68	パジャマから普段着へ着替える	35.4	76.3	88.6	88.9	97.3	98.0	95.7	100.0	100.0	100
69	寝具を片付ける	15.4	47.4	71.4	80.0	97.3	91.8	91.3	90.0	92.3	100
70	就寝のため、入室へ移動する	55.4	86.8	94.3	93.3	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100
71	寝具の準備をする	13.8	55.3	68.6	77.8	100.0	95.9	95.7	100.0	92.3	100
72	自分の茶わんやコップを見分け、準備する	15.6	44.7	62.9	75.6	94.6	100.0	95.7	100.0	100.0	100
73	茶わんやお箸を人数分並べる	9.5	21.1	41.2	60.0	73.0	93.9	91.3	100.0	84.6	100
74	メニューに沿った食器を並べる	3.1	13.2	17.6	46.7	67.6	81.6	87.0	90.0	84.6	100
75	ご飯や味噌汁を盛り付ける	9.2	39.5	35.3	51.1	78.4	85.7	82.6	90.0	76.9	100

項目	MA1歳代		MA2歳代		MA3歳代		MA4歳代		MA5歳代		MA6歳代		MA7歳代		MA8歳代		MA9歳代		MA10歳<	
	N=65	N=38	N=35	N=45	N=37	N=49	N=23	N=10	N=13	N=5	N=65	N=38	N=35	N=45	N=37	N=49	N=23	N=10	N=13	N=5
№	%																			
76 量の調節をして、おかずを盛り付ける	6.2	15.8	20.6	35.6	62.2	77.6	91.3	80.0	76.9	100										
77 壊れ易い食器を片付ける	4.6	31.6	23.5	60.0	75.7	91.8	82.6	90.0	100.0	100										
78 紅茶やコーヒーを自分で入れる	6.2	31.6	37.1	44.4	70.3	75.5	78.3	100.0	92.3	100										
79 道具を必要としない簡単な調理をする(カップラーメン、サンドイッチなど)	0.0	13.2	11.4	36.4	51.4	71.4	82.6	100.0	84.6	100										
80 何種類かの手順のある調理をする	0.0	2.6	2.9	11.1	18.9	37.5	60.9	66.7	61.5	60										
81 洗濯機を使用する	3.1	18.4	17.1	40.0	62.2	83.7	82.6	90.0	84.6	60										
82 洗濯バサミを使い、洗濯物を干す	9.2	23.7	37.1	60.0	83.8	91.8	82.6	100.0	100.0	100										
83 洗濯物を取り込む	9.2	26.3	37.1	66.7	78.4	93.9	91.3	100.0	92.3	100										
84 洋服をたたむ	7.7	23.7	51.4	62.2	81.1	91.8	82.6	90.0	84.6	80										
85 下着と洋服を分け、タンスにしまう	13.8	26.3	34.3	62.2	86.5	79.6	78.3	90.0	92.3	80										
86 自分の部屋を掃除する	4.6	21.1	31.4	53.3	70.3	75.5	73.9	80.0	76.9	60										
87 日常使用する物(歯ブラシ、コップなど)を所定の位置にしまう	29.2	76.3	77.1	88.9	91.9	91.8	95.7	100.0	92.3	80										
88 自室の装飾(花を飾る、好きな絵を飾るなど)	0.0	10.5	20.0	48.9	54.1	79.6	73.9	70.0	84.6	60										
89 集団での簡単な活動に参加する	15.4	55.3	62.9	77.8	94.6	96.0	81.8	100.0	100.0	100										
90 CDプレイヤーやビデオを操作する	6.2	39.5	45.7	48.9	81.1	87.8	82.6	90.0	100.0	80										
91 本や新聞、雑誌を読む	9.2	21.1	34.3	57.8	67.6	83.7	87.0	90.0	100.0	100										
92 活動を中止し、食事や入浴など指示された行動に移る	15.4	39.5	57.1	73.3	83.8	87.8	95.7	100.0	84.6	100										
93 体調不良を訴える	9.2	26.3	45.7	66.7	73.0	95.9	91.3	90.0	100.0	100										
94 簡単な傷の手当て(絆創膏をはるなど)をする	0.0	7.9	8.6	46.7	56.8	81.6	69.6	70.0	84.6	100										
95 決まった時間に服薬する	6.2	15.8	40.0	53.3	70.3	87.8	95.7	100.0	92.3	100										
96 形のはっきりと違う、数種類の部品を分類する	10.8	44.7	45.7	71.1	75.7	81.6	87.0	90.0	100.0	80										
97 形の似た、数種類の部品を分類する	6.2	23.7	25.7	57.8	62.2	71.4	82.6	90.0	100.0	80										
98 赤、青などの色のはっきり違う2色のビーズを色別に分類する	7.7	42.1	45.7	75.6	81.1	87.8	91.3	90.0	100.0	60										
99 赤、青、黄色、緑などの4色のビーズを色別に分類する	6.2	26.3	40.0	64.4	73.0	85.7	91.3	90.0	100.0	60										
100 青、水色など、数種類の似た色のビーズを、色別に分類する	4.6	21.1	34.3	55.6	64.9	77.6	87.0	90.0	100.0	60										
101 数種類の大きさの違う部品を分類する	9.2	28.9	37.1	68.9	75.0	73.5	91.3	100.0	100.0	60										
102 1つの袋に、1つの部品を入れる	10.8	39.5	65.7	82.2	83.3	85.7	87.0	100.0	100.0	60										
103 2つの部品の組み立て	4.6	24.3	34.3	66.7	66.7	81.6	78.3	90.0	100.0	60										
104 3部品以上の組み立て	0.0	5.3	17.1	28.9	36.1	59.2	60.9	70.0	84.6	60										
105 製品の良・不良を見分ける	0.0	5.3	8.6	26.7	22.2	55.1	72.7	60.0	92.3	60										
106 量に計量する	0.0	7.9	2.9	42.2	48.6	75.5	87.0	90.0	100.0	100										
107 ひもを同じ長さで切りそろえる	0.0	7.9	20.0	48.9	48.6	75.5	87.0	80.0	100.0	100										
108 数種類の商品カード名をあいいうお順にすべて正しく並べる	0.0	2.6	8.6	33.3	35.1	67.3	82.6	80.0	100.0	100										
109 1～5の数字カードを正しい順に並べる	0.0	5.3	11.4	51.1	69.4	87.8	95.7	90.0	100.0	100										
110 複雑な組み立て順序のある作業を行う	0.0	0.0	2.9	17.8	20.0	53.1	52.2	60.0	92.3	60										
111 金槌で石を砕く	9.2	34.2	37.1	37.8	63.9	75.5	82.6	80.0	100.0	100										
112 金槌で釘を打つ	3.1	18.4	22.9	26.7	47.2	71.4	78.3	66.7	100.0	100										
113 板が割れないように、板に金槌で釘を打つ	0.0	0.0	5.7	17.8	27.8	59.6	52.2	55.6	92.3	60										
114 ハンカチの端と端を合わせて、たたむ	7.7	31.6	54.3	68.9	73.0	93.9	95.7	80.0	100.0	80										
115 ビーズに針を通す	6.2	28.9	48.6	53.3	61.1	79.6	78.3	77.8	92.3	80										
116 正確さ…連続して所定の位置にシールを貼る	4.6	23.7	32.4	60.0	62.2	87.5	82.6	77.8	92.3	80										
117 ハサミやカッターを注意して扱う	1.5	21.1	22.9	60.0	70.3	93.9	87.0	77.8	84.6	80										
118 ハサミを使用し、まっすぐに紙を切る	1.5	23.7	25.7	51.1	61.1	83.7	82.6	66.7	92.3	80										
119 水の入ったコップをこぼさずに運ぶ	15.6	60.5	60.0	77.8	91.9	95.9	95.7	90.0	100.0	100										
120 土の入ったバケツを両手で運ぶ	16.9	60.5	62.9	75.6	83.8	93.9	91.3	90.0	100.0	100										
121 荷物(みかん箱大、1kg程度)を持って、30m以上歩く	23.1	60.5	74.3	73.3	89.2	89.8	82.6	90.0	100.0	80										
122 1時間程度、立ち作業を行う	10.8	52.6	57.1	80.0	91.9	91.8	91.3	100.0	92.3	80										
123 天候や行事による作業の変更に応じる	16.9	65.8	82.9	84.4	89.2	95.9	91.3	100.0	100.0	100										
124 出席の際、名前を呼ばれて返事をする	32.3	84.2	85.7	84.4	97.3	100.0	95.7	100.0	100.0	100										
125 いつも使用している材料を準備する	18.5	60.5	71.4	91.1	94.6	96.0	91.3	100.0	100.0	100										
126 自ら作業に取り掛かる	16.9	57.9	60.0	84.4	81.1	98.0	87.0	100.0	92.3	100										
127 自分の席で作業開始の合図を待つ	24.6	73.7	74.3	91.1	86.5	91.8	95.7	100.0	100.0	100										
128 指示されて作業を中断する	23.1	76.3	80.0	86.7	94.6	89.8	91.3	100.0	100.0	100										
129 いつも使用している材料を、所定の位置に片付ける	23.1	68.4	82.9	86.7	91.9	98.0	91.3	100.0	100.0	100										
130 熟知した作業で、ほぼ一定した作業効率を維持する	12.3	36.8	48.6	66.7	75.7	83.3	91.3	100.0	92.3	80										
131 1時間程度、着席作業を継続する	18.5	71.1	68.6	88.9	86.5	93.9	91.3	100.0	100.0	80										
132 与えられた課題に1分以上集中する	18.5	50.0	60.0	77.8	81.1	89.8	95.7	100.0	100.0	80										
133 理由のない遅刻や欠勤をしない	25.0	62.2	79.4	80.0	81.1	81.6	82.6	90.0	76.9	80										
134 休憩後の始業に遅れずに、作業に取り掛かる	16.9	52.6	67.6	77.8	83.8	95.9	87.0	100.0	76.9	80										
135 与えられたノルマを時間内に達成する	4.6	34.2	41.2	64.4	70.3	85.7	69.6	90.0	84.6	100										
136 作業中に生理的要求をうったえる	21.5	47.4	60.0	75.6	83.8	93.9	81.8	90.0	100.0	100										
137 作業中に疲労や体調不良をうったえる	4.6	34.2	37.1	62.2	70.3	93.0	82.6	90.0	92.3	100										
138 他の人がそばにいても、影響されずに作業を続ける	13.8	47.4	45.7	60.0	59.5	81.6	60.9	90.0	84.6	60										
139 休憩時間などで、周囲の人と交流する	10.8	34.2	48.6	55.6	75.7	85.7	69.6	90.0	92.3	100										
140 当日の作業ノルマ終了の報告をする	1.5	28.9	40.0	62.2	70.3	87.8	82.6	100.0	100.0	100										
141 点検を受けるために、報告をする	0.0	23.7	34.3	66.7	78.4	89.8	78.3	100.0	100.0	80										
142 作事中に持ち場を離れない	15.4	57.9	57.1	82.2	89.2	89.8	82.6	100.0	84.6	80										
143 隣の人のペースに合わせて、仕事を進める	1.6	18.4	31.4	42.2	37.8	68.8	65.2	80.0	69.2	80										
144 作業の誤りに対する修正に素直に応じる	7.7	44.7	48.6	75.6	64.9	79.6	78.3	90.0	92.3	100										
145 作業中の課題を中断させ、別の課題に移行する	7.7	39.5	57.1	73.3	83.8	83.7	78.3	100.0	100.0	100										

Table.5 居住環境群における介助レベル別構成比 単位:人(%)

居住環境群	自立レベル	間接介助レベル	直接介助レベル	総計
GH	41 (93.2)	3 (6.8)	0 (0.0)	44 (100.0)
居住型施設	42 (34.4)	37 (30.3)	43 (35.2)	122 (100.0)
在宅	101 (65.6)	43 (27.9)	10 (6.5)	154 (100.0)
総計	184 (57.5)	83 (25.9)	53 (16.6)	320 (100.0)



「目的地までのバスに間違えずに乗る」, 「(バス, 電車で)目的地で一人で降りる」, 「スケジュールに沿った行動をする」, 「スーパーなどで指定された商品を選ぶ」, 「紅茶やコーヒーを入れる」の家事や外出に関連する5項目, MA6歳代で, 「(カップラーメン, サンドイッチなど)道具を必要としない簡単な調理」の家事に関連する1項目が抽出された。

・考察

今回おこなった調査結果から, 「食事」, 「排泄」, 「起床・就寝」の領域は平均値が4以上であり, これらの領域は, 多くの成人期知的障害者にとって良好な適応状態であることが明らかとなった。評価項目ごとにみると, 「食事用具の使用」や「服の着脱」で得点が高かった。柚木(1998)は, 小規模作業所における重点支援領域を明らかにするために, 作業所を利用する知的障害者の適応状況を調査している。この調査結果から「重度障害者でも年齢があがることで, 基本的習慣はさらに確立の方向をたどる」と指摘しており, 今回の調査でも同様の結果を得た。

一方, 支援ニーズの高い領域として「金銭管理」領域があげられた。「金銭管理」領域の平均得点は2点台であり, 金銭管理に関連する適応スキルは, 多くの成人期知的障害者にとって, 直接的な支援が必要であることが明白になった。

また, MA, IQ と各領域の平均得点の間には, いずれの領域も高い相関が認められた。MAと適応スキルとの関連性や内容上の重複性は, 多くの研究で指摘されている。本調査による評価結果においても同様の結果が得られ, 今回の調査項目の達成には, MAが強く影響していることが明らかとなった。

達成MAによる知的水準からみた調査項目の傾向を, MA4歳を境に, 項目の内容において相違がみられた。すなわち, MA4歳以下が達成MAであった項目は, 身辺処理に関連する項目や日常の活動のなかで繰り返し経験される項目が多く含まれていた。一方, MA4歳以上では, IADLや家事, 道具を使用しての活動など, 複合的な適応スキルにを要する項目が多く含まれていた。

居住環境別に各介助レベルに該当する対象者を集計した結果, GH群では, 93.2%が自立レベルにあり, 多くの利用者が援助の度合いが低いことが明らかとなった。一方, 居住型施設群において, 34.4%が自立レベルとして集計された。適応スキルの高さが, グループホームなどの地域生活への移行のひとつの条件と考えらるならば, 本研究の居住型施設を利用する知的障害者の地域移行への可能性が高いことが明らかとなった。

達成MA対象者のMAから抽出された獲得困難項目は, 居住環境の違いにより異っていた。適応スキルは, MAによる影響は強いものの, MA以外の環境などの要因が推測される項目もあることが示唆された。

居住環境別獲得困難項目として抽出された項目は、GH 群では「身辺処理」などの ADL 領域に関連する項目、居住型施設群では「身辺処理」などの ADL 領域、「家事」や「外出」などの IADL 領域に関連する項目であった。獲得困難項目を対象者らの支援ニーズとして考えると、同程度の MA 水準であっても、グループホーム生活者と施設生活者とは、支援ニーズが異なることが明らかとなった。しかし、グループホームでの生活(援助されたことも含めて)により、IADL 領域の適応状況が良好になったのか、これらの領域に関連する適応スキルに制約が少い者がグループホームで生活しているかは、今回の分析のみでは不明であろう。今後、入所期間の統制や縦断的な調査による研究が必要であろう。

文献

- 1) 中央児童福祉審議会(2000): 今後の知的障害者・障害児施策のあり方について。
- 2) 北海道立「太陽の園」・伊達市立「通勤寮」編(1993): 施設を出て町に暮らす,ぶどう社。
- 3) 中澤 健(1997): グループホームからの出発,中央法規。
- 4) 知的障害者グループホーム運営研究会編(2001): 知的障害者グループホーム運営ハンドブック,中央法規。
- 5) 島田博祐,渡辺勸持,高橋 亮,谷口幸一(2002): 中高齢知的障害者の処遇及び生活実態に関する研究 入所施設とグループホームの比較から,発達障害研究,24(1),pp67-78。
- 6) 有岡道博(1999): 施設入所知的障害者の社会適応に関する調査研究報告書,ももぞの福祉園
- 7) American Association on Mental Retardation(1992): MENTAL RETARDATION【9th Edition】(茂木俊彦(監訳)(1992): 精神遅滞【第9版】 定義・分類・サポートシステム,学苑社。
- 8) World Health Organization(2001): International Classification of Functioning, Disability and Health (障害者福祉研究会編(2002): ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版,中央法規)。
- 9) 廣瀬貴一(1988): 障害者の地域生活援助方法としてのグループホーム,昭和62年度厚生省心身障害研究。
- 10) 橋本創一(2001): 知的障害者の生活適応能力のアセスメントに関する研究「知的障害者の生活適応支援チェックリスト」の開発と適用。発達障害支援システム学研究,1(1),pp19-26。
- 11) 柚木 馥(1998): 知的障害者の法外小規模施設における教育実践,コレール社。
- 12) 関戸英紀,井上珠理(2000): グループホームに居住する障害者のQOLに関する調査 横浜市の「A型」および「B型」グループホームの比較を中心に,横浜国立大学教育人間科学部紀要 教育科学(3),pp105-115。
- 13) 島田博祐,高橋 亮,渡辺勸持,谷口幸一(2002): 中高齢知的障害者の加齢に伴う適応行動の変化について 入所施設生活者とグループホーム生活者を比較して 特殊教育学研究,40(4),pp375-387。
- 14) 渡辺勸持,大島正彦,三田優子,島田博祐,高橋知江,石元憲明(1998): グループホームにおける重度知的障害者の生活と援助体制 愛知県のグループホーム調査より,発達障害研究,20(2),pp52-60。
- 15) 渡辺勸持,三田優子,堀尾富美江,高橋知江(1998): 知的障害者を持つ人々のグループホームの展開 バックアップ形態と都道府県分布による分析,発達障害研究,20(3),pp72-81。
- 16) 渡辺勸持,青山美智恵,堀尾富美恵,三田優子(2000): 知的障害者のグループホームにおけるバックアップ形態と入居経路及び入居者の特性 全国調査から,日本の地域福祉,pp74-90。
- 17) 全日本手をつなぐ育成会(2000): 重度の障害のある人が利用するグループホームについて。
- 18) 神奈川県知的障害者施設団体連合会(1999): 神奈川県生活ホーム・グループホーム実態調査報告書。
- 19) 日本知的障害者福祉協会(2003): 平成13年度全国知的障害児・者施設実態調査報告書。